

アートワールドウォーキングガイド

2026 vol.5 (通巻493号)

ギャラリー
5

GALLERY

[私の10点] 醍醐イサム

〔海老塚耕一の作家対談・鼎談 第29回〕
《解答のない問い、そしてあるいは…》

ゲスト・坂本太郎 司会・海老塚耕一

5月の全国美術展【美術館/百貨店/画廊】スケジュール&マップ

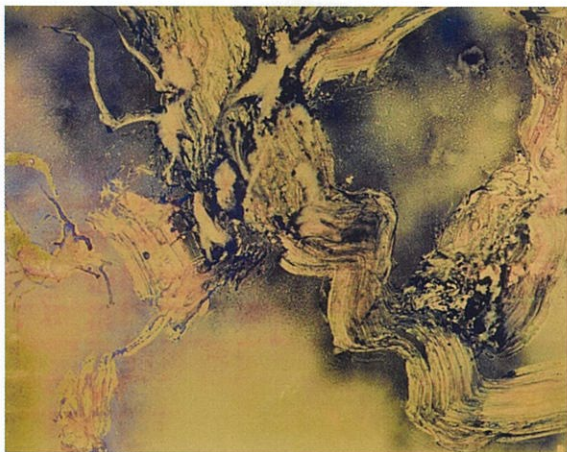
いまここ Here and Now 池上 恵一 Keiichi Ikegami

身体内部に生じる圧力や「凝り」を主題に探究を続けてきた池上恵一。同展は、幼少期の身体経験を起点に、手技療法や武術を通じて得た感覚を、木炭ドローイングや彫塑へと昇華してきたその軌跡を提示する。表現は平面・立体にとどまらず、パフォーマンスや舞台へと拡張し、近年は一層の純度と強度を獲得。「いまここ」という主題のもと、触覚と意識の臨界に迫りつつ、現在という一点に凝縮された知覚の深層を浮かび上がらせる。多様な作品を通して、作家の思考と表現の深化を体感する機会となる。



4月18日→5月23日
ギャラリーノマル
大阪府大阪市城東区永田 3-5-22

菅原健彦展 RUTEN 一流転—



《岩抱き杉》和紙、金箔、岩絵具 130 × 162cm 2025年

5月23日→6月21日
ギャラリーためなが大阪
大阪府大阪市中央区城見 1-4-1
ホテルニューオータニ大阪 1階

ギャラリーためなが大阪では、東京展に続いて、昨年62歳で急逝した画家・菅原健彦を追悼する「菅原健彦展 RUTEN 一流転—」を開催する。作家は畏敬をもって自然と対峙し、神代桜や青池などに宿る超越的な生命の気配を画面に刻み続けた。同展では2011年以降の代表作約30点を通じ、悠久の時を内包する日本の原風景と、その刹那の輝きを捉えた表現の核心に迫る。作品の中に息づく生命の連なりは、なお観る者の魂を深く揺さぶり続ける。